

1. 調査報告概要表

作成日 平成19年 1月15日

【評価実施概要】

事業所番号	2172600419
法人名	医療法人社団 康誠会
事業所名	グループホーム ケア・ガーデンおおの
所在地 (電話番号)	〒501-0553 岐阜県揖斐郡大野町南方二度桜191番地 (電話) 0585-35-0088
評価機関名	NPO法人 ぎふ住民福祉研究会
所在地	〒501-6232 岐阜県羽島市竹鼻町狐穴719番地1
訪問調査日	平成19年12月1日

【情報提供票より】(19年11月1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 12年 5月 1日
ユニット数	1 ユニット
職員数	13
利用定員数計	9 人
	常勤 7 人, 非常勤 6 人, 常勤換算 8.7 人

(2)建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り
	2階建ての 2階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	85,000 円	その他の経費(月額)	7,500 円	
敷金	有(円)		(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1,750 円		

(4)利用者の概要(11月1日現在)

利用者人数	9名	男性	1名	女性	8名
要介護1	0名	要介護2	0名		
要介護3	3名	要介護4	3名		
要介護5	3名	要支援2	0名		
年齢	平均 86歳	最低	62歳	最高	95歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	小林医院
---------	------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

GHケア・ガーデンおおのは、開設以来、この地域に愛され、親しまれるホームを目指して歩みつづけている。特にサービスの質の向上に向けて、施設長、事務局長、管理者そして職員全員があらゆるノウハウを駆使した支援を行なっている。具体的には、入居前から施設に馴染める体制をとっており、ターミナルの支援要綱を作成して入居者に分かりやすく説明して利用希望者や家族等が安心して入居することができる。また、入居してからは、利用者が高齢になっているため入退院を繰り返すが、本人や家族が是非、ケア・ガーデンおおのに戻りたいという希望が多く、そのために早期退院に向けての協議や、部屋をそのまま空けておく措置をしている。また、ここ数年職員の異動が無いことも、利用者に安心感と日々の生活の楽しさを与えている。職員は全員、特養や老健での経験者で、介護を熟知しており、一人ひとりが介護に生きがいを持って介助、支援をしている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の外部評価で指摘された事項について、職員全員で話し合い、改善シートを作り、改善に向けた取り組みをしている。地域住民との交流については、散歩マップを作成したり、積極的に地域に出て、ふれあう機会をつくっている。ヒヤリハットを定期的に分析し事故予防に繋ぐことについて全員で協議し、ケアや業務の見直し等を徹底的に行いその成果が出ていて事故の再発が少なくなっている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>施設で毎年、自己評価を実施しており、気付いたことや改善することを、職員全員で確認し合っている。今回の外部評価に対する自己評価も、普段どおり職員全員で取り組んでいる。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は、義務付けられた当初から、定期的に開催しており、その内容は、施設の紹介や認知症の理解及び、施設の行事や近況を報告している。回を重ねた現在では、施設の近況をお知らせすることのほかに、自己評価や外部評価結果を報告し、特に、自己評価の項目別に推進委員を該当する施設内に案内し、ケアや支援の現場を見ていただき、意見等をもらっている。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>意見箱が玄関に設置しており、入居時や家族の面会時、運営推進会議等、様々な機会を捕らえて、苦情相談担当者の説明や意見の出やすい工夫をしている。また、出てきた意見や要望等を職員で話し合い、直ぐやれるものはやり、時間や予算を伴うものは、提言者によく説明をしている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>開設当初から、地域にグループホームの紹介と認知症の理解とその普及に取り組んでいる。今回、地域密着型サービスが新設されたことにより、更に地域住民との交流を図る工夫をしている。散歩マップを作り、散歩するたびにそのコースを描いたり、行き付けの喫茶店やスーパー等、目印になる建物や地域の人の家を記すなど、積極的に外に出て、あいさつを交わすなど、交流を深めている。</p>

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	18年度の介護保険制度の改正で、地域密着型サービスが創設されたが、GHケア・ガーデンおおのは、開設以来、「住みなれた町で、その人らしく生き生き」との、理念を掲げており、家庭的な環境の下、地域住民との交流も早くから取り組んでいる。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	施設長や事務局長等が、グループホームを良く理解しており、それを受けて管理者や職員は、会議等で常に理念を確認し合い、理念に沿って、日々の生活の支援を行なっている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	GHケア・ガーデンおおのは、田園地帯の真中に位置しており、周りに地域住民の住宅が少ないが、散歩や喫茶、買い物、外食等に良く出かけ、行き交う人々と気軽にあいさつを交わしたり、保育園、小中学校との交流及びボランティア等の付き合いも大切にしている。また、散歩マップを作成して、地域住民の名前を記し、親しむ取り組みをしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	毎年、自己評価を職員全員で行い、気付きを職員全員で話し合い、サービスの質の向上や改善に向けた取り組みをしている。また、前回の外部評価で指摘されたことについては、改善シートを作成し、指摘された項目は全て改善されていた。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、義務付けられた当初から、いち早く実践している。毎回、委員全員から意見を出し易いように工夫しており、前回出された助言や質問事項等は、職員で話し合い運営に反映している。また、経過を含め、次回の運営推進会議で説明報告をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議で、役場の担当者から、グループホームの現況等話してもらっている。また、グループホームの啓発や認知症の理解についても、地域住民と積極的に話し合いを重ねている。ホームの行事に参加してもらったり、ホームの便りを役場関係に置いたり、連携を密にしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	ホームの便りを毎月発行しており、家族会の同意を得て、利用者の近況を知らせている。また、面会時は、必ず職員が利用者の暮らし振りや健康状態及び金銭管理についての報告をしている。介護計画作成についても、きめ細かい相談や希望等を聞く体制が出来ている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱が玄関に設置しており、苦情や相談窓口についても担当者を決め、入居時や様々な機会を捕らえて、家族に説明している。また、運営推進会議や面会時に話し合いの時間をもち、出てきた意見や要望について、施設の運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	施設長や事務局長と管理者及び職員の信頼関係が出来ている。施設長や事務局長は、働きやすい職場づくりに取り組んでおり、それに応える形でここ数年間職員の異動はない。 結果的に、利用者が安心して日々の暮らしができ、楽しい生活を送っている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設長や事務局長は、職場の研修や教育の重要性を理解しており、各職員の職務の理解度や介護経験等に応じ、計画的に研修を受講させている。また、研修の復命書や会議において、研修報告をしており、研修成果を職員間で共有している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域にある5つのグループホームで管理者が集まる機会を定期的に持っており、グループホームが抱える課題や運営状況を話し合い、お互いの活動からサービスの質の向上に繋がる事項を聞き、今後の運営に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用希望者や家族に、施設を見学してもらうことからはじめている。また、職員が家庭訪問して施設の内容を分かりやすく説明するなど、利用開始前から徐々に馴染む機会を多く持ち、本人が安心して、納得して入居してもらっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	介護に熟練した職員が、利用者と共に生活することを生きがいにしており、常に本人本位の支援をしている。時には叱り、時には涙ぐみ、また、一緒に食事を楽しみ、一緒に入浴をしており、利用者から感謝の気持ちが職員に伝わっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は日々の生活の中で、一人ひとりの思いや意向、いま、何をしたいか、どう暮らしたいのか聞いたり、その人の言動で把握するように努めている。また、会話の困難な人は特に、目の配りやポツンと発した言葉から、その人の思いや意向の把握をしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	地域密着型サービスを踏まえ、施設内で家庭的で本人らしい生活を送るケアをしていることは勿論、入居者が地域住民といかに交流を重ねていくかを含めて、職員全員で本人の健康状態や課題、家族の希望や要望等情報を交換し、本人に一番適した支援ができるよう話し合い、介護計画を作成している。また、作成した介護計画については、家族に説明をして、その都度、同意を得ている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者の加齢や認知症の進行等、日々の生活の変化を記録し、それらを基に主治医や職員全員で話し合い、家族と相談したうえで、見直し作業をしている。定期的な見直しを行なっているが、急な変化に対しては、その状況に応じて関係者の話し合いでケアの見直しを行なっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者が入院したとき、本人の意向を把握し、家族の希望や要望を踏まえ、病院と早期退院に向けての協力を重ねている。また、利用者の実家を訪問したり、美容院やかかりつけの医者に連れて行く支援を行なっている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に、施設の主治医について分かりやすく説明をしている。しかし、本人や家族が、今までのかかりつけ医を希望する場合は、本人や家族の意見を尊重している。また、本人の急な変化に対しては、施設の主治医に任せることなども、入居時に説明して、同意を得ている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期の指針要綱を、入居時に渡して、分かりやすく説明をしている。これまで2件のターミナルを実施しており、利用者や家族の安心に繋がっている。また、終末に向けた介護支援や主治医、家族との連携について、職員が会議や勉強会で話し合い、いつそのような事態になっても、慌てず速やかに対処できる体制が出来ている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員全員に、利用者の尊厳を尊重することが周知されており、言葉かけや支援等において、利用者一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねないよう、優しく丁寧な話し掛けやさりげない支援を行なっている。また、個人記録を記した書類の置き場所にもプライバシーの配慮をし訪問者の眼につかないところに保管している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	地域密着型サービスにおいて、施設は家族的な環境の下と地域住民との交流の下で、その人らしく暮らしつづけることを支援していくサービスを提供する、と言うことを職員全員が理解している。それを踏まえて、日々の暮らしにおいて、本人のペースに合わせながら、本人が今、何をしたいか、どう暮らしたいかを把握して、本人の希望に沿って支援を行なっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は、利用者と職員全員と一緒に同じ物を食べており、楽しい食事となっている。また、食事の準備や後片付けを、やれる人は職員と一緒に楽しみながら行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者にとって、入浴は楽しみの1つであるが、加齢とともに入浴から遠ざかろうとする人が多くいる中で、施設の決まりによることなく、なるべく本人の入りたいという希望するときに入浴を楽しませている。また、浴槽は大きく、温泉旅館の家族風呂を彷彿とさせ、入浴が更に楽しいものとなっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	訪問時の昼食に出た里芋も、この施設の園芸で採れたもので、利用者一人ひとりの趣味や特技を生かした役割を楽しんで行なっている。また、職員が利用者の生活歴や持っている力、趣味、特技を把握しており、個別に対応することで充実した日々を過ごせる支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩マップを、利用者と職員で作成しており、散歩するたびにマップに気がついた目印を美しい色で塗り、完成に近づける作業を全員で行なっている。管理者は、外の風・空気を感じることで、利用者の気分転換や意欲の活性化に繋がることや1日中ホームの中で暮らすことでストレスが溜まることを認識しており、散歩のほか、喫茶店やスーパーへの買い物、外食など多彩な外出支援を日常的に行なっている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	管理者や職員は、鍵を掛けないケアが原則であることを理解している。ホームが2階にあるが、安全面等を考え、どうしてもものとき以外は鍵を掛けていない。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	併設の施設と一緒に、消防署の協力を得て、避難訓練や初期消火訓練を定期的に行なっている。また、日ごろのミーティングや会議等で、災害等について職員間で話し合い、有事のときも慌てないよう、緊急連絡表や避難経路の作成等の取り組みをしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員は、日々のバイタルチェックや健康状態を通して食事や水分の摂取量等を注意深く、見守っている。栄養バランスについては、管理栄養士がカロリー計算をして献立をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間の大きな窓から、大パノラマが展開し、遠くに金華山や岐阜城が望め、近くの取り残された柿の美しい風景が目の前に広がる。雪景色が綺麗で感動している、と利用者が話していた。施設内は清掃が行き届いており、衛生的である。また、明るく、静かで、何処に身を寄せても落ち着ける空間になっている。壁等に利用者の作品や写真が貼られ、とても家庭的なものになっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室は、作りつけの家具があり、整理整頓されている。利用者が使い慣れたものが持ち込まれており、また、家族の写真や花、ちぎり絵、書道等が飾ってあり、個性のある部屋になっているとともに、安堵できる場所になっている。		